

G O G O F A N D

弘前大学地域共同
研究センター

弘前大学は二〇〇六年に「弘前大学マッチング研究支援事業―弘大GOGOファンド―」を創設した。教員と企業等の共同研究に対し、五百万円を上限に資金援助する。おおむね一年以内の事業化が条件。これまでに三件を実施している。

津軽地域は食の宝庫だ。その食の中心にあるフレッシュな果物や野菜を、これまでと違った形で消費者に届けたい。田舎館村の「ケイ・エイム・ナチュラル」代表の平俊隆氏は考えていた。その際、風味やおいしきは本物と変わらないものでな

注目技術・研究

52

ければならない。平氏の強みは、食品の形や風味を保持したまま乾燥させるフリーズドライ技術。八年前に、これからの時間をゆつたりと過ごす社会にハーブティーの未来を感じた。ハーブティーなら、距離のハンディを超えて大消費地に届けられる。

農学生命科学部の斉藤寛准教授に相談。旧岩木町にハーブの農場を作った。〇七年六月にハーブ類の香気成分損失を抑制するフリーズドライ法の開発で「弘大GOGOファンド」に応募。審査に当たった工藤重光コーデ

研究者の知恵 地域に



「弘大GOGOファンド」を活用して商品化されたハーブティー

イネーターは「科学的検証を武器に、生葉と同等のおいしさと長期保存が可能な食品」に可能性を感じた。その

通り、小さくて軽い津軽産食品のフリーズドライのハーブティーが商品化され、青森空港や青森市のアスパムで販売している。

青森県の地域振興を直接的に狙った大学発研究ファンドは、全国に類がない。地域共同研究センターは、このようなファンド等を中心に弘前大学の研究者の知恵や情報を地域社会に開放し、地域社会の元気や魅力、そして夢を未来に活(い)かす仕組みである。

(弘大地域共同研究センター長・檜楨寛)

▽問い合わせ先 同センター産学官連携コーディネーター・工藤重光(電話0172-33176、eメールshige-k@cc.hiro.saki-u.ac.jp)